

火の見櫓

地域を見つめる安全遺産
昭和村ボランティアガイドの会

理事 倉澤 俊雄

火の見櫓は、火事の発生をいち早く見つけ半鐘を叩いて知らせる施設である。それは、集落に危機を知らせるとともに、その状況を隣の集落に伝達したり、隣の集落の状況を把握したりするためにある。そのため、周りの家よりも高い場所、集落を見渡せると同時に半鐘の音がよく聞こえる場所に建てられた。

火の見櫓は、江戸時代に、江戸の町の大火をきっかけに、火事の早期発見と伝達のため、消防組織だった火消しの施設として生まれた。当時はほとんどの家が木造だったため、一か所で起きた火事でも、燃え広がれば集落、町や村全体を焼き尽くすこともあった。これを防ぐために、火消しが組織された。火の見櫓が機能するためには、消防の仕組みが不可欠である。火災を発見し伝達するとともに、消防隊を編成し出動させる。人を動かすシステムと一体なのだ。

明治期になると、全国で消防組が組織され、火の見櫓は地方にも広まっていった。当時は、木製の梯子と半鐘だけの簡素なものが多かったが、明治末ごろから鉄製のものが作られるようになった。昭和初期には、村や字くらの単位で建てられ、昭和14年以降は、空襲警報も鳴らすようになったが、鉄の供出により取り壊されたものも多い。戦後は、まもなく再建されるようになり、昭和30年代後半にかけて急増し最盛期を迎えた。

さて、本村の火の見櫓は現時点で三か所（貝野瀬、糸井、永井）のみである。以前は、各地区ごとにあったが、老朽化や防災網の整備によって撤去された。



火の見櫓(糸井)

火の見櫓は風景に溶け込んでいる。まるで、集落の空気のように。あつて当然のもの、当たり前のものでなくなって、普段は気にとめられていない。今では使われないことが多いが、忘れられているということもあるだろうが、この地域の思い出ある貴重な安全遺産を後世に残したいものである。

参考文献 火の見櫓からまちづくりを考える会、協力 昭和村役場総務課



地域包括支援センターだより

自分や家族、身近な人のもの忘れが気になる方へ

くろほカフェ 開催のお知らせ

～お茶を飲みながら、ゆっくり相談しませんか？～

日程 毎週金曜日 ※年末年始、祝日の場合はお休み

開催中!	12月	18日
	令和3年	1月 8・15・22・29日
		2月 5・12・19・26日
		3月 5・12・19・26日

※状況により中止となる場合があります。



時間 午前9時30分～午後4時00分
場所 地域活性化センター(談話室・和室東)

費用は無料で、申込みの必要はありません。好きな時間に来て、お帰りも自由です。専門職(介護・看護・福祉)に相談ができます。なんでも悩みをお話してください。同じ悩みを持つ人同士の交流もあります。どなたでもお気軽にお越しください。
※カフェにお越しの際は、検温・手指消毒・咳エチケットにご協力ください。



問合せ 地域包括支援センター ☎24-5111(内線135)